



◀ そのほかの取材記事はこちらから

市内のイベント情報ははこちらから▶

向坂奈穂美 赤こんリポーター



自分にも周りにも良いかたちで実現する
“我がまま力”とは

若者の育成支援を目的とした「008 プロジェクト」。個性を生かす学びや企業をテーマに掲げ、3月21日に講演会が開催されました。

講師は、困難を抱える若者の再挑戦をサポートしている起業家中馬一登さん。自身の経験や事業への熱い想いを話す姿からは、「どんな状況でも一人ひとりが持つ可能性や個性を生かせる」という強いメッセージが伝わってきました。「自分の長所がわからない」「自信がない」と感じる時でも、中馬さんの言葉を聞くと「何かやってみようかな」と前向きな気持ちになれるはずです。

子どもたちの可能性を改めて信じさせてもらえる講演会でした。

松村美沙枝 赤こんリポーター



色とりどりの音色を奏でる 7色の音楽会

3月20日、市内にある全ての中学校・高校の吹奏楽部が出演する「7色の音楽会」が市文化会館で開催されました。記念すべき第10回目となる今回の音楽祭では、令和7年4月に吹奏楽部を創部した八幡中学校が初参加し、堂々とした演奏を披露していました。

各学校の演奏では、それぞれの“色”を出した演奏で観客を魅了しました。また、この会の見どころのもうひとつは、全学校のメンバーで奏でる合同演奏。いつもはライブでもあるメンバーとの演奏に、たくさんの刺激を受けているようでした。

西野康代 赤こんリポーター



江頭町の工房でバイオリン作り

「自分がおもしろいと思うことをやっていく生き方がしたい」外資系企業でコンピューターのプログラミングの仕事をしていた細野正洋さんは会社を早期退職し、アンティーク家具工房を開業。その後、器用にいろいろなモノづくりをする細野さんは、一緒に旅行をした友人に勧められたことがきっかけで、平成12年にバイオリン作りを始めました。「同じ音のものは絶対に作れないので、求めに来る人には工房で実際に弾いてもらい、気に入った音のものを買ってもらいます」と細野さん。今は119台目を製作されています。自然に囲まれた穏やかな工房で、心も豊かに後世まで美しい音色を響かせるバイオリン作りを目指し、日々工夫を重ねられています。

山田恵美 赤こんリポーター



近江八幡の歴史やお話を紙芝居で楽しむ

4月5日、アル・プラザ近江八幡1階で近江八幡観光ボランティアガイド協会の紙芝居部による紙芝居の上演が行われました。近江八幡の町並みや八幡堀を整備した豊臣秀次の働きや本市に貢献したウィリアム・メレル・ヴォーリズの生涯などが紹介され、こうした歴史が現在の近江八幡の景観や魅力につながっていることが分かりやすく語られました。

訪れた人たちは、紙芝居を通して近江八幡に関する歴史や人物について理解を深め、楽しみながら学ぶ貴重な機会となったようです。

4月7日



安土城郭資料館展示物がリニューアル

安土城築城450年記念事業の一環として、安土城郭資料館の展示がリニューアルされました。「見て・触れて・体感する」をテーマに、新たな展示を制作。約450年前、織田信長公がローマ法王へ献上した金屏風に関連し、天正遣欧少年使節の旅路を描いたドラマ「MAGI」を再編集した映像を上映しています。さらに安土城・観音寺城・八幡山城の見どころや石垣の特徴を学べる大型本や着付け体験コーナーを新設。歴史を身近に体感できる魅力あふれる内容となっています。

八幡児童公園の遊具・中村児童公園
リニューアル



昭和50年に整備された中村児童公園は、樹木や遊具の老朽化により安全面や見通しに課題が生じていたほか、社会情勢の変化による利用者ニーズの多様化にも対応が求められていました。再整備には、「誰もが安全に楽しめるよう」をコンセプトに、子育て支援団体や市民の意見を反映し進めてきました。園内には、幼児・児童向けやインクルーシブ遊具を備えた「遊び広場」をはじめ、「芝生広場」「集いの広場」「イベント広場」などを整備し、多世代が安全に楽しめる空間となっています。リニューアルオープン後、早速遊びに来た子どもたちは「遊具が増えてうれしい」「お友だちと毎日来る」と大はしゃぎでした。

また、八幡児童公園では老朽化した遊具を更新し、コンビすべり台やブランコなどを新設しました。両公園の整備にはふるさと納税寄附金を活用しています。

4月14日・15日



八幡まつり

千年以上の歴史を持ち、国選択無形民俗文化財でもある八幡まつりが日牟禮八幡宮で開催されました。

14日の宵宮祭では、10mを超える大松明のほか、各郷から特色のある傘松明やとっくり松明、振松明、引きずり松明などが奉納され、古例の順番にしたがって点火されました。次々と炎が立ち上がると境内は幻想的な雰囲気になり、氏子や多くの見物客が五穀豊穡と無病息災を祈りました。15日の本祭では、大太鼓の渡りが行われ、打ち鳴らされる力強い音がまちに響き渡りました。

松明と太鼓が織りなす伝統の祭りに、多くの人が見入っていました。

3月15日



子どもたちが挑戦 小田町松明づくり

小田町に伝わる松明づくりの文化を次世代へ伝えようと、小田町自治会および小田町松明づくり保存会が主催し、子ども松明教室が開催されました。小田町では古くから、子どもたちの健やかな成長を願い、各家庭で手作りした松明を持って、小田神社の春季大祭の宵宮に子どもたちが参加する風習が受け継がれてきました。近年は、松明を作る家庭が減少し、この地域に受け継がれてきた文化の継承が課題となっています。こうした中で開催された教室には約20人が参加し、松明づくり名人の指導のもと、2日間かけて高さ約1mの大きさの松明を丁寧に作り上げました。

参加した小学5年生の児童は「松明を作る前は難しそうに感じたけど、意外に簡単で楽しかった。均等に笠を作るのが難しかった」と話していました。